

28P1-am206

Clarithromycin耐性*Helicobacter pylori*の糞便からの検出によるテーラーメイド除菌療法

○田村 玲美¹, 林原 絵美子¹, 河合 隆², 野口 雅久¹, 笹津 備規¹(¹東京薬大・薬,
²東京医大・内視鏡セ)

【目的】*Helicobacter pylori* (Hp) は慢性胃炎、消化性潰瘍の主な原因菌である。Hpの除菌には、proton pump inhibitor、amoxicillin、clarithromycin (CAM) を含む3剤除菌療法が広く用いられている。しかし、CAM 耐性 Hp の増加に伴い Hp 除菌率の低下が問題となっている。そのため、Hp 除菌治療前に感染 Hp の CAM 感受性を評価し、患者個々に適した除菌療法を選択することが推奨されている。我々は、非侵襲的に採取可能な糞便を用いて、CAM 耐性 Hp の検出法を開発した。そこで、本法を用いてテーラーメイド除菌治療を行い、臨床における応用性を検証した。

【方法】東京医科大学病院を受診した Hp 陽性上部消化器疾患患者から採取した糞便を検体として用いた。Hp 感染は尿素呼吸試験 (UBT) または培養法により確認した。採取した糞便から物理的方法を用いて DNA を抽出後、Hp 特異的プライマーを用いて 23S rRNA の CAM 標的部位を nested-PCR により増幅した。変異は DNA シーケンスの決定により検出し、野生株を感受性株、2142 位または 2143 位の変異株を耐性株とした。

【結果・考察】本法を用いて Hp 23S rRNA の変異解析から除菌前に感染 Hp 株の CAM 感受性を予測した。感受性 Hp 感染患者には、常法の CAM を含む 3 剤除菌療法を行った。耐性 Hp 感染患者及び感受性 Hp と耐性 Hp の混在型感染患者については、CAM に代えて Metronidazole (MTZ) を用いた 3 剤除菌療法を行った。除菌判定は除菌後 6~8 週経過後 UBT により判定した。その結果、除菌率は大幅に上昇したことから、本法は迅速かつ非侵襲的 CAM 耐性 Hp 検出法として、Hp 除菌治療におけるテーラーメイド療法に応用できる有用な方法であると考えられた。